

国際環境工学部における基盤教育科目の到達目標

※ 関連する学校様と方針の相違性 ㊟：関連 ○：関連 △：やや関連										2022年4月1日			
科目区分		授業科目	知識	技能	思考・判断・表現力	コミュニケーション力	自律的行動力	意図的な「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自律的行動力」	
人文・社会(16)	教養教育科目(24)	経済入門Ⅰ	㊟	○	○			経済学の基礎的知識を身に付ける。	経済学理論の枠組みから関係する分野への理解を深めることができる。	自身が今後関わることになる経済活動を想定し、それについて論理的に考察できる。	-	-	
		心と体の健康学		○		○	㊟	-	身体とメンタルの管理方法を実践できる。	-	身体とメンタルの状態について、他者とやりとりしながら把握し、協力して改善することができる。	年齢の進行に応じた身体とメンタルのケアに必要な情報を自ら得ることができる。	
		考え方の基礎		○	㊟	○		-	大学生に求められる「考え方」とはどのようなものかを身に付ける。	読解力と論理的思考力の重要性を学び、自らの考えを適切に表出する体験を増やす。	読解力と論理的思考力の重要性を学び、自らの考えを適切に表出する体験を増やす。	協働学習を通じ、参加者相互に課題を共有し問題解決を目指すためのコツを身に付ける。	-
		キャリア・プランニング	○	㊟		○		キャリア設計に必要な知識を身に付ける。	-	キャリア設計を必要に応じて再編することができる。	-	キャリア設計において、必要な相談を他者と文わしつづ、自ら再編していくことができる。	
		経済入門Ⅱ	㊟		○		△	日本や世界の経済情勢に関する知識を身に付ける。	-	経済現象について情報を整理し、自身の意見を表明できる。	-	今後の経済情勢を予測し、自身の将来設計に役立てることができる。	
		経営入門	㊟		○			企業の役割や仕組みについて、説明することができる。	-	社会における企業の役割に関心を持ち、説明することができる。	-	-	
		現代人のこころ		㊟	○	○		-	-	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	心理学的観点より社会を理解し、他者との協働に役立てることができる。	心理学的な理論と知見を活用し、自身の行動を深く考察することができる。	
		倫理入門			㊟	○	○		-	-	複雑な状況下で問題を定義し、分析することができる。	社会の共通ルールについて考え、それをもとに行動することができる。	倫理問題を他人事ではなく、自分の立場で考え、対応することができる。
		日本語の表現技術		㊟	○	○			-	大学生活に必要なアカデミック・ジャーナリズムを身に付け、レポート執筆のために適切な表現や文体を選択することができる。	日本語の表現・文体の多様性と機能を知り、レポートに必要な表現技術を自ら判断することができる。	書き言葉による情報共有を図ることができる。	-
		アジア経済	㊟	○	○				アジア地域の社会、経済について重要な知識を身に付ける。	関連する統計数値の分析を行うことができる。	今後のアジア地域、世界経済情勢を予測し、自身の意見を表現できる。	-	-
		とばとジェンダー			○	㊟	○		-	-	ジェンダーを表現することとそれを越えた課題を指摘し、倫理的な解決策を検討することができる。	ジェンダーバイアスに支配されない正しい知識と精神力をもって、お互いを尊重しつつコミュニケーションをとることができる。	ジェンダーを表現することの存在を認識し、他者との共生のために必要な倫理観を自ら養っていくことができる。
		技術者としての倫理	○	㊟		○		○	技術者としての倫理的行動の方法とその背景となる理論枠組みを説明することができる。	-	技術的な対応とそれを越えた課題を指摘し、倫理的な解決策を検討することができる。	-	技術者の社会的な影響力を理解し、倫理的な行動を設計することができる。
		スタートアップ研究	○	○		○	㊟		事業構想の理論的枠組みを身に付けている。	-	社会的課題を把握し、事業を通じた創造的な解決策を提案することができる。	-	個人とグループで課題に取り組み解決策を生み出すことができる。
		企業研究	○			○	㊟		企業活動を把握するための情報収集と整理の方法を身に付ける。	-	-	調査結果を整理、発表し、質疑応答することができる。	調査結果に基づいて、自身のキャリア設計を実行することができる。
		社会学習インターンシップ		○	○	㊟			-	-	インターンシップ体験で得たことを振り返り、自身の言葉で表現できる。	相互にインターンシップ体験を発表し、質疑応答することができる。	自身でキャリア設計を行い、就業体験先を選び取ることができる。
		人文社会ゼミ		○	㊟	○			-	-	関心のある題材に対して思考を深め、判断し、自身の言葉で表現できる。	研究発表を通じて自分で選択したテーマを明確に伝えることができる。	論理的な思考力を養い、社会活動に活かす土台作りができる。
	基盤教育科目(32)	国際経済研究	㊟		○				世界の経済情勢、国際関係についての知識を身に付ける。	-	グローバル化の更なる進展など世界情勢の変化を理解し、行動することができる。	-	-
		知的所有権	○	㊟	○				知的所有権についての基本的知識を身に付ける。	知財情報データベースを検索し、必要な情報を引き出すことができる。	知財情報に基づいて、取り扱うアイデアや技術を定義し、表現できる。	-	-
		データサイエンス入門	○	㊟					データサイエンスやAIなどの技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	データを適切に活用するための基礎的な技能を身に付けている。	-	-	-
		社会で活かすAI技術	○	㊟	△				社会へのAI技術の応用を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	AI技術の表裏を正しく理解するために必要な技能を身に付けている。	AI技術の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	-
		社会を動かすデータ活用	○	㊟	△				社会へのデータサイエンスの応用を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	データサイエンスの実状を正しく理解するために必要な技能を身に付けている。	データサイエンスの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	-
		キャリア・デザイン				○	㊟		-	-	-	社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身に付けている。	自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		地域のにぎわいづくり	㊟		○	○			北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	-	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。	-	地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
		未来を創る環境技術	㊟						環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	-	環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
環境(8)	地域防災への招待	㊟		○	○			地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	-	地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。	
	自然史へのびざない	㊟		○	○			自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身に付けている。	-	自然史に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。	
	環境問題特別講義	㊟						環境問題およびSDGs(持続可能な開発目標)に関する幅広い知識と基礎的な研究アプローチを学ぶための手段を身に付けている。	-	-	-	-	
	環境学入門	㊟						地球環境に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身に付けている。	-	-	-	-	
	環境問題事例研究	㊟	○		○			社会問題を分野横断・文理融合により解決するための工学的なアプローチに関する事例や基礎的な知識を理解している。	限られた小規模なテーマについて、調査・研究活動の全体を独立してから、リスクマネジメント、データ収集・分析、フィールドワーク実施、プレゼンテーションを遂行するための技能を身に付けている。	-	調査・研究活動において、リスクマネジメントの基礎を理解し、チームで積極的な議論をしながら、協働して研究テーマに取り組む姿勢を身に付けている。	-	
	生態学	㊟		○				生態系の中での生物と環境とのかかわりについて、幅広い視野から洞察し、幅広い知識を持っている。	-	生態系の構造や機能に関する知識が、人間生活の改善にどのようにかかわっているのかについてよく理解し、これにかかわる自己の意見を表明できる。	-	-	
	環境都市論	㊟						都市の環境問題の発生と対策・政策の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。	-	都市環境問題に対して、どのように生産・消費等の人間活動が原因や解決に関わっているのかを理解する。	-	-	
	外国語教育科目(8)	英語Ⅰ		㊟	○				-	英語のパラグラフ構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。	文章の基本構造を理解し、自分の考えを発信することができる。	-	-
英語Ⅱ				㊟	○			-	身近な話題について英語で聞いて理解する力及び伝える力を身に付ける。	英語で論理的に表現することができる。	-	-	
実践英語			㊟	○				-	基本的な語彙、文法を身に付け、英語の読む力、聞く力を向上させる。	英語を用いて基本的なコミュニケーションを取ることができる。	-	-	
英語Ⅲ			㊟	○				-	英語のパラグラフ構造を理解し、内容を整理して読むことができる。	根拠を示して自分の意見を表現することができる。	-	-	
英語Ⅳ			㊟	○				-	英語のプレゼンテーションで使用される基礎的な表現と語彙を身に付ける。	様々な情報やデータを英語で分かりやすく伝えることができる。	-	-	
英語Ⅴ			㊟	○				-	英語の論理構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。	適切な基本構造を用いて、自分の考えや必要な情報を論理的に表現することができる。	-	-	
英語Ⅵ			㊟	○				-	様々なテーマに触れながら、大学生としてふさわしい聞く力・話す力を身に付ける。	様々な情報やデータを活用し、自分の意見を論理的に述べることができる。	-	-	
英語Ⅶ			㊟	○				-	興味ある分野について、英語で書かれた文書を読み、理解し、その特徴を分析することができる。	適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。	-	-	
留学生特別科目	College EnglishⅠ		㊟					-	大学の授業で求められる英語の基礎力を身に付ける。	-	-	-	
	College EnglishⅡ		㊟					-	英語の基本的な理解力及び表現力を身に付ける。	-	-	-	
	総合日本語A		㊟	○	○			-	大学で教育を受けていくために必要な日本語の熟達度を高めることができる。	大学生活の様々な場面で求められる語彙、表現、文法を、自らが判断して使い分けすることができる。	大学の授業に参加し、日本語で理解し、教員や受講生と意思の疎通を図る。	-	
	総合日本語B		㊟	○	○			-	上級レベルの日本語学習者にとっても複雑と思われる課題に対応する実践的な日本語能力を身に付ける。	レポートやプレゼンテーションの準備のために必要な情報収集活動の段階から、日本語を駆使して問題解決を図ることができる。	不特定多数の聴衆・読者を対象に、日本語で自らの意見を正確に伝えることができる。	-	
	技術日本語基礎	△	㊟	○				-	日常生活では使用頻度が低いものでも、環境工学に関する課題を扱うに必要な語彙や表現を理解することができる。	環境工学に関わりのある日本語資料(視覚資料を含む)を理解し、それに関連する短いレポートを執筆するための能力を身に付ける。	専門的な単語や表現にも抵抗感を感じることなく、環境工学に関する話題を理解し、レポートを通して意見を述べることができる。	-	
	ビジネス日本語		㊟		○	○		-	自己を正しく分析した上で自らの能力を説明し、就職活動を的確に行うための日本語の理解力、発信力を身に付ける。	-	就職活動中、及び、社会人となった後に求められる日本語コミュニケーション能力を身に付ける。	-	
	日本事情(1)	日本事情	㊟	○	○	○		-	日本の大学生活を送る上で不可欠となるマナー、法律、一般常識を総合的に理解している。	日本人・日本社会の実情を的確に分析し、文化的差異を乗り越えて円滑に大学生活を送ることができる。	日本で的大学生活や日本人との協働をそれほど抵抗なく行うことができる。	-	